

授業科目名	保 健 統 計 学			担当教員	守山 正樹	
開講年次	2年後期	セメスター	3	時間数(単位数)	30 (1)	
必修選択	必修	授業形態	講義・演習	使用教室		
授業の目的	統計の考え方を理解し、人々の健康や保健の状況を統計的に探る問題意識と感性を育み、それらの概念と方法を集団に応用し、看護職者に必要な統計学的アプローチを習得する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 保健統計の概念を理解し「国民衛生の動向」の統計指標を読み取ることができる。 保健統計の仮説を立て、関連の統計量を計算し、統計的仮説検定を行うことができる。 卒後は看護専門職として人々や集団の健康状態を把握でき、国際的に活動できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	保健統計の考え方	講義	テキストI部、保健統計とその見方、統計資料の見方 1,2,3；予習と復習	1時間	守山	
2	統計の基本；平均、分数、比率 国が行う主要調査；国勢調査から 国民生活基礎調査まで	講義	テキストI部、6国勢調査、7患者調査、 8国民生活基礎調査；予習と復習	1時間	守山	
3	人生の重要事をもとにした人口 動態統計と保健統計指標	講義	テキストI部、4人口動態統計、16 - 18保健指標；予習と復習	1時間	守山	
4	傷病や医療の統計的把握、my 標本のための試作調査票点検	講義	テキストI部、19傷病量の表現、14 レセプトと医療統計、15介護関連統 計；予習と復習	1時間	守山	
5	保健統計指標のまとめ、my標 本に向けた調査設計の考え方、 my標本のための実査演習	講義	中間テストに向けたテキストI部（これ まで学んだ部分）の復習	1時間	守山	
6	中間テスト／my標本とデータ整 理の基本	演習	テキストII部、34データとは、35デ ータの種類と尺度；復習	1時間	守山	
7	my標本に至る調査の基本過程、 データ表から読むデータの性質、 集計の初歩としての分数をどう定 義するか	演習	テキストII部、36統計調査の計画と 実施；予習と復習	1時間	守山	
8	my標本での分布の観察；度数 分布表、ヒストグラム、代表値を 得る	演習	テキストII部、41度数分布表、42ヒ ストグラム、43代表値；予習と復習	1時間	守山	
9	my標本と基本集計；平均とば らつきを計算する	演習	テキストII部、43代表値、44散布度、 46平均と標準偏差の計算；予習と復習	1時間	守山	
10	my標本と相関；変数を二つ 選び、散布図を描き、相関を観 察し、相関係数を計算する	演習	テキストII部、47散布図と相関係数； 予習と復習	1時間	守山	
11	my標本とクロス集計表；変数 を二つ選び、関連性を仮定し、 四分表を作り、実測値と期待値 のずれからカイ二乗値を計算する	演習	テキストII部、40クロス集計、48関 連性の解析、60分割表の検定；予 習と復習	1時間	守山	

12	my 標本と統計的仮説検定；統計量を計算し、帰無仮説をもとに考え、棄却を判断する	演習	テキストⅢ部、統計的推論、49 事象、59 仮説検定、51,52,53 確率分布；予習と復習	1時間	守山
13	my 標本の基本分析のまとめと今後の解析；分散分析、多変量解析、統計パッケージの概要	演習	my 標本に対してこれまで行ってきた分析・計算と得られた知見を振り返る	1時間	守山
14	標準化と生命表の考え方	講義	テキストⅠ部、20-22 指標の標準化、23 生命表；予習と復習	1時間	守山
15	保健統計の発想を生かした保健活動の進め方：これまでのまとめとフィードバック	講義	さまざまなグラフや図表を保健統計で学んだ知識を生かして読みまとめる	1時間	守山
先行履修科目					
テキスト	福富和夫、橋本修二：保健統計・疫学（改訂 5 版）、南山堂、2014.				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 保健統計学マイクロレクチャー http://health-stat.blogspot.jp/ 厚生労働統計協会編：厚生指標 増刊，国民衛生の動向 2017/2018，厚生労働統計協会出版，2017。（すでに旧版を持っている場合は、それでも可。） 				
メッセージ	ひとりを見る目を集団、地域、国、そしてグローブ（地球）へ広げてください。保健統計学はこのための重要な武器となります。				
科目の位置づけ	「統計学」で学んだ概念と方法を実際の集団で、保健の課題に適用することを学修する科目です。この科目で習得する方法は地域保健や疫学を学ぶ際にも役立ち、3・4 年次の「看護研究方法」「卒業研究」「公衆衛生看護活動」でさらに展開・活用されることになります。				
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力
				◎	○
評価方法	中間試験（時期は講義 6 回目辺り）30%、授業参加度（20%）、レポート（50%）を総合して評価。				